



メディア掲載・出演情報（2018年）

- ◆日刊まにら新聞（2018年4月5日）『子どもたちが時計作りに挑戦』
- ◆渋谷のラジオ（2018年9月6日）

団体概要

団体名：特定非営利活動法人アクション（英語名：ACTION inc.）

代表：横田 宗（よこた はじめ）

設立：1994年 / 法人登記：2002年

webサイト

日本語版：<http://www.actionman.jp/>

英語版：<http://www.action.org.ph/>

■日本事務局（日本人職員2名）

〒180-0023 東京都武蔵野市境南町3-10-1 パールハイツタカハシ1F

■オロンガポ事務局（日本人職員1名、フィリピン人職員15名）

ACTION Inc./ Chikara Project Studio

Unit No.9-A 4th Floor, RM Cneter Point Mall, Rizal Avenue, Cor Magsaysay Drive,
East Tapinac, Olongapo City, Philippines 2200

■マニラ事務局（フィリピン人職員4名）

MANILA OFFICE/ Chikara Project Studio,

1019 A101 EDSA Ave, Project 7, Vetelans Vill, Quezon City, Metro Manila, Philippines

■エコミスモ事務局

2nd floor 17E N. Naval st, Brgy Flores, Malabon city Metro Manila, Philippines 1471



特定非営利活動法人アクション

平成30年度 事業報告書

代表挨拶



2018年も多くの方にご支援、ご協力を頂き無事に予定していた活動を実施することができました。スタッフ一同、そして皆様が応援して下さいました。2018年は数年前から進めていた、多くのフィリピン人に応援してもらえる団体となり、活動費をフィリピン国内で集められるようになるという目標に向かって具体的に前進した年でした。フィリピンにはPCNC (Philippine Council for NGO Certification) という組織があり、その認定を受けるとアクションに寄付をした組織や個人は寄付金控除を受けられます。日本とは違い、寄付金控除の上限がないため、マネーロンダリングに悪用されないように審査が厳しく狭き門となっています。アクションでは半年ほどかけて準備をし書類審査を受け、その後、会計士や弁護士、財務専門家、プロジェクト専門家による組織や財務、事業の審査を受けました。多少の改善点の指摘はあったものの2019年の夏頃には日本の団体として初の認定を受けられる見込みです。それに先立ち、フィリピンでも有名な財団であるコンスエロ・ゾベル財団と提携し2019年度には100万ペソ（約210万円）の支援を受ける事が決定しています。また、Bank of Philippine Island (通称BPI) 財団というアヤラ財閥が運営する銀行の財団と貧困層に対する金融教育を実施していく事でも合意を得られています。日本だけではなく、フィリピンの様々なリソースを活かし、これまでとは違った取り組みを実施していきたいと思えます。2016年よりJICA草の根技術協力事業として実施している施設職員能力強化研修及びライフスキル研修も終盤。現在はマニラ首都圏の施設において施設職員能力強化研修、中部ルソンの施設においてライフスキル研修を実施中です。このプロジェクトの目的は、施設の子供達と関わる施設職員の能力を強化し、施設にいる間に子供達がより良いケアを受けられるようにすることです。そし

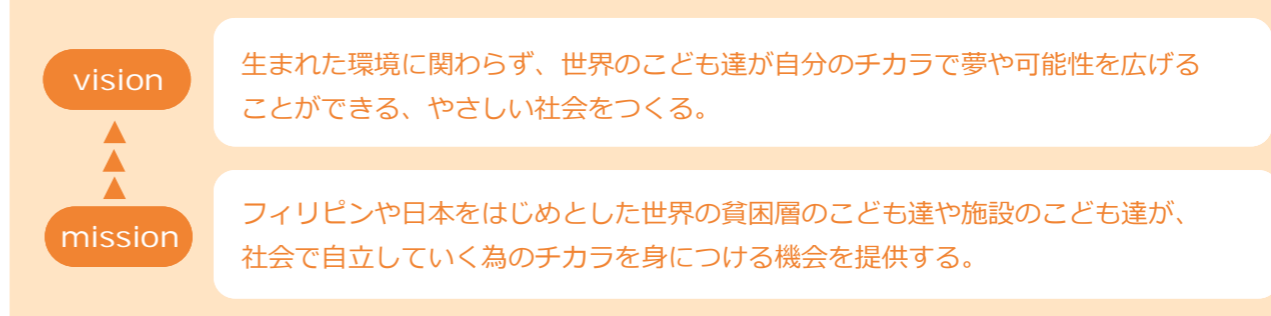
て、研修自体を国の研修として制定する事です。2018年12月に社会福祉開発省本省で全地域事務所長、局長により討議がされ認可を受ける事ができました。2019年の3月頃には全事務次官及び大臣の間で議論され、認可をされれば正式に国の研修として当会が作成した教材や研修プログラムそのものが制定される事になります。チカラプロジェクトをはじめとした現場での子ども達との関わりから見てくる施設や貧困層の課題、それを国の制度作りや仕組み作りに繋げていく、そんな想いが実現しそうです。日本事務局で実施している子ども達の学びの場コドリム、そして児童養護施設「至誠大地の家」での算数教室も順調に参加者を伸ばしています。フィリピンで子ども達の貧困に関わってきた経験を活かして日本の社会の課題へのアプローチする。まだまだ試行錯誤の段階ですが、日本の社会にも必要とされるより良い活動を目指して行きたいと思えます。フィリピン経済は依然として高い経済成長率を維持し、至る所で建設ラッシュ。街は活気で溢れています。しかし、当会が活動をしている地域では経済成長の恩恵を受けるまでには至っておらず、高いインフレ率（年6-7%）の中で貧困層の生活は厳しくなっています。オロンガボ事務所があるスービック経済特区において大きな雇用を生んでいた韓国資本の韓進造船が破綻、約2万人が解雇されたほか、フィリピン経済史上最大の不良債権となる事が懸念されています。経済繁栄の一方で広がる貧富の格差。その格差の影響を受ける子ども達の未来。2019年は平成最後の年、そして当会は設立25周年を迎えます。フィリピン社会の中で当会の果たす役割は増えていくと思えます。その期待に応えられるよう活動を継続していくためには皆様の力が必要です。引き続き、皆様のご支援、ご協力をお願い致します。

NPO法人アクション 

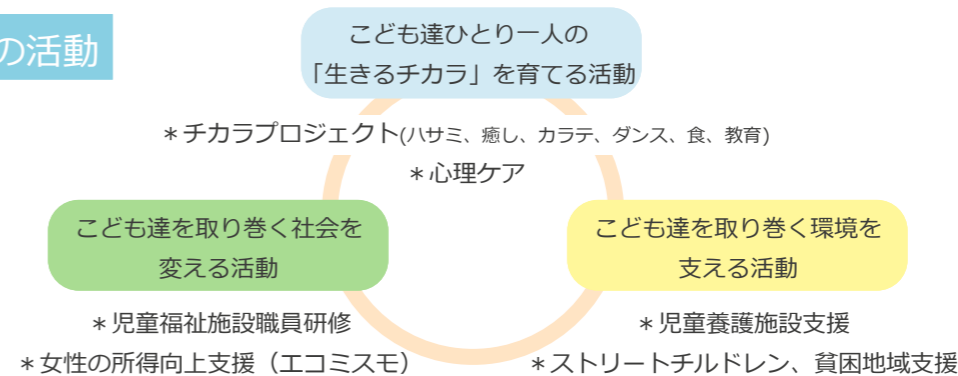
2018年活動概要

1994年、ピナトゥボ火山の噴火で被災した孤児院の修繕作業から始まったNPO法人アクションの活動は、児童養護施設やストリートチルドレンのための支援へと広がりました。アクションは現在、子ども達への支援と子ども達を取り巻く社会に対する活動を行っています。生まれた環境に関わらず、世界の子ども達が自分のチカラで夢や可能性を広げることができるやさしい社会をつくるため、2017年は以下の活動を行いました。

アクションの活動理念



フィリピンでの活動



チカラプロジェクト	施設や貧困地域の子ども達に対して、子ども達が自分自身で自立に向かうチカラを身に付けることを目標に、職業訓練としてハサミのチカラ（美容師養成）と癒しのチカラ（セラピスト養成）、教育・ケアとしてダンスのチカラ、空手のチカラ、食のチカラ、教育のチカラを実施。
心理ケア	施設の子ども達が心に抱える課題と向き合うために、心理ケアプログラムを実施。
児童福祉施設職員研修	施設の子ども達がよりよい環境で生活できるように、中部ルソン地域とマニラ首都圏の計12~17施設の職員に対して研修を実施。*JICA草の根パートナー事業
女性の所得向上支援	マニラとオロンガボ市にて、経済的貧困により家庭での養育が不十分な子ども達を支援するために、貧困地域の母親のフェアトレード製品製作事業を実施。
児童養護施設支援	主に児童養護施設ジャイラホームにて、朝食支援や学用品支援、施設の修繕を実施。
ストリートチルドレン	現地NGOタタッグと提携し、ストリートチルドレン向けの青空教室を実施。

日本での活動

海外ボランティア	国際協力への関心を高めると共にフィリピンの子ども達にボランティア派遣を実施。
国際理解教育	武蔵野市教育委員会主催「土曜学校世界を知る会」や学校での授業で国際理解教育を実施。
チカラプロジェクトinジャパン	日本の児童養護施設や地域の子どもに対して学習支援を実施。
募金活動	ハサミのチカラへの協力店舗にて募金箱の設置を実施。



チカラプロジェクト

こども達への職業訓練と教育・ケアで自立に必要な「生きるチカラ」を育てる！

貧困地域で暮らすこどもやストリートチルドレン、児童養護施設で暮らすこどもの「生きるチカラ」を育てるチカラプロジェクトでは、職業訓練や教育・ケア活動を実施しています。こども達が将来、社会で自立できるように、チカラプロジェクトを通して自分に自信を持てる体験を積み重ねる機会を提供しています。チカラプロジェクトでは、以下のプログラムを提供しています。

提供しているプログラム

<職業訓練>

- ハサミのチカラ 美容師になるための知識や技術を身に付ける
- 癒しのチカラ セラピストになるための知識や技術を身に付ける

<教育・ケア>

- 空手のチカラ 物事を成し遂げる経験や、礼儀を身に付ける
- ダンスのチカラ 自分を表現する方法や協調性を身に付ける
- 食のチカラ 給食提供や食育で健やかな体を育む



ハサミのチカラ

開催場所：オロンガボ市・マニラ / 実施回数：62回

オロンガボ市とマニラ市でヘアカットの技術を学ぶためのハサミのチカラアカデミーを実施しています。毎週土曜日に3時間のヘアカット等の練習をし、美容師になるための技術修得を目指し頑張っています。また平日の授業終了後もヘアカットの練習をしに来る子もおり、スキル習得に向けてこども達は熱心に練習に取り組んでいます。4月には日本とフィリピンのプロの美容師である5名が講師となり、3日間のトレーニングキャンプを実施。11月にも日本のプロ美容師の方々による特別授業を実施しました。また、ハサミのチカラアカデミー参加者の1名が10月よりフィリピンの美容院で働くことが決まり、現在アシスタントして頑張っています。



癒しのチカラ

開催場所：オロンガボ市・マニラ / 実施回数：181回

美容系専門求人サイトリジョブ様の「咲くらプロジェクト」のご支援のもと、マッサージセラピスト養成プロジェクトを行っています。約3カ月間のマッサージセラピストの技術を修得するための講座を地域の方々に無料で提供しています。2018年には、129名が講座を修了しました。現時点で、27名が養成講座卒業後にスバで就職しており、90名がホームサービス等のマッサージの仕事に携わっています。地域の方々が新しい収入源の道を確保できるようなサポートを行っています。



空手のチカラ

開催場所：オロンガボ市 / 実施回数：477回

こども達の健全な育成を目指し、施設のこども達や貧困地域のこども達に空手教室を提供しています。1月と7月には、空手の昇級試験を実施し、49名のこども達が試験に合格しました。昇級試験に合格すると新しい道着や帯をもらうことができるので、昇級試験はこども達が空手の練習に励む大きなモチベーションとなっています。また、6月と12月にはマニラで開かれた空手トーナメント大会に参加しました。6月の大会には17名のこども達が参加し、3名のこどもが2位、2名のこどもが3位となり、12月の大会では参加した14名のうち、2名のこどもが優勝、2名のこどもが3位と好成績を残すことができました。練習の成果が昇級試験合格や空手の大会での成績につながることで、こども達はますます練習に励んでいます。



ダンスのチカラ

開催場所：オロンガボ市 / 実施回数：335回

施設のこども達や貧困地域のこども達に週1回のダンスレッスンを実施しています。フィリピンのこども達は歌と踊りが大好きなので、非常に楽しそうな様子でダンスの練習に参加しています。日々の練習の成果は、年に数回実施されるイベントにて発表をします。8月には日本からのボランティアと一緒にオロンガボ市にあるショッピングモールでフラッシュモブを披露しました。また、10月にはハロハロアライアンス様と共同で開催した、こどもの権利を啓発し、こども達の能力が十分に発揮される社会を作ることを目指すためのイベントである「Philippine Children's Summit」にて、AKB48の姉妹グループであるMNL48と同じ舞台にてダンスを披露しました。大舞台でもこども達は日々の練習の成果を存分に発揮することができました。



食のチカラ

開催場所：オロンガボ市 / 受益者119名

発展途上国のこども達に対して給食支援を行っているTable For Two様と共同で2014年よりカステリヤホス町バライバイ小学校で給食支援を実施しています。「食」は人間が生きていくために欠かせないもので、食べることを疎かにすると勉強や運動など何事も上手くいかなくなります。今年度もこども達が自分自身のチカラを最大限に発揮してもらうために、栄養が不足しているこども達119名を対象に給食を提供し、「食」のチカラを届けました。また、学校にある菜園での野菜作りを通して、食べ物への感謝をこども達と共に学ぶ活動も行いました。こども達だけでなく、保護者に向けて料理大会や栄養講座を開催し、保護者の料理スキルの向上に努めました。



[次年度に向けて]

全てのチカラプログラムで、今年度と同様の内容を実施予定です。こども達がより効果的に多くのライフスキルを身につけることができる機会を提供していきます。

事業内容：	こども達への職業訓練及び情操教育で、生きるチカラを育む「チカラプロジェクト」
受益者層：	児童養護施設のこども、貧困地域のこども、ストリートチルドレン、貧困地域の大人
担当者：	山本浩平、戸口羅津樹、Evangeline Grace Balais、Michelle Tayao、Riozan Yen Locsin



第2フェーズJICA草の根技術協力事業実施

(実施期間：2016年10月～2019年8月)

本事業は2012年～2015年に実施した児童擁護施設職員のための能力強化事業に続く事業として2016年10月よりスタートしました。児童養護施設で暮らす子ども達を取り巻く環境の改善を目指し、マニラ首都圏と中部ルソン地域で児童養護施設の養育体制強化及びフィリピン行政機関に対する「ハウスペアレント研修規定」の提案を行います。

児童養護施設職員に対する能力強化研修実施

第1フェーズに中部ルソン地域で実施した施設職員向け能力強化研修をマニラ首都圏に展開。前事業で開発した研修教材に地域性を考慮した改良を加えながら養護施設職員に対する能力強化研修を実施しました。マニラ首都圏の17施設がパートナー施設として事業に参加。パートナー施設の施設職員に対して、子どもの権利や関連法律などに関する知識、こどものハンドリングなどの日々の業務に役立つ技術を学ぶための研修を行っています。



2018年に実施した活動

2017年に実施したソーシャルワーカー向けトレーナー研修とハウスペアレント向け能力強化研修に引き続き、2018年も第2回ソーシャルワーカー向けトレーナー研修とハウスペアレント向け能力強化研修を実施しました。研修方法は、初めにソーシャルワーカーの研修指導員育成研修を行い、研修を受けたソーシャルワーカーがハウスペアレントに対して研修の指導を行うという方法を採用しています。また、本事業では政策提言活動も行っています。

* 第2回ソーシャルワーカー向けトレーナー研修（2018年7月）
 ソーシャルワーカーを対象とした施設職員向け能力強化研修の指導員育成のための研修を実施。マニラ首都圏の17施設より28名のソーシャルワーカーが参加しました。

* 第2回ハウスペアレント向け能力強化研修（2018年8月～11月）
 全10モジュールで構成された教材を使用し、児童養護施設職員向け能力強化研修を実施。第二回トレーナー研修を受講したソーシャルワーカーが研修の指導を行った。マニラ首都圏の17施設より54名のハウスペアレンが全研修課程を修了。11月に卒業式を実施した、研修を修了したハウスペアレントに修了証書を授与しました。

* 政策提言活動
 マニラ首都圏と中部ルソン地域で実施した研修のフィリピン全土への展開を見据え、「ハウスペアレント研修規定」を社会福祉開発省（DSWD）長官に提出し、政策提言を行います。2018年10月に「ハウスペアレント研修規定」作成のためのワークショップを実施。DSWD長官に提出する「ハウスペアレント研修規定」の作成、DSWDへの提出を行い、現在研修規定の受理に向けてDSWDでの審査を受けています。

事業内容： 児童養護施設職員のための能力強化研修の実施とフィリピン全土での研修実施を目指した政策提言
受益者層： マニラ首都圏にある児童養護施設のソーシャルワーカー及びハウスペアレント
担当者： 横田宗、山本浩平、畝尾知佳、フィリピン事務局スタッフ7名

児童養護施設の子ども達の成長と自立を促進

第1フェーズの事業地であった中部ルソン地域において子ども達の成長と自立を促進するための活動を展開。本事業に参加している中部ルソン地域の33パートナー施設のソーシャルワーカーとハウスペアレントを対象に、子ども達に対してライフスキル向上アクティビティを指導するためのスキルを学ぶアクティビティマネジメント研修を実施。研修で学んだ内容を踏まえ、ソーシャルワーカーとハウスペアレントが実際に施設の子ども達に対してライフスキル向上アクティビティを実施しています。施設で暮らす子ども達の施設退所後の生活を見据え、子ども達がライフスキルを習得できるようにサポートを行っています。



2018年に実施した活動（中部ルソン地域）

* アクティビティマネジメント研修（2018年8月-11月）
 中部ルソン地域の施設の81名のソーシャルワーカー・ハウスペアレントが参加。「Self-awareness(自己認識)」、「Grooming and Self Care(心と体のセルフケア)」、「Life goal setting(人生の目標設定)」、「Spirituality(精神性)」、「Problem Solving(問題解決)」、「Effectively Managing Emotions(効果的な感情コントロール)」、「Interpersonal Communication Skills(対人コミュニケーション能力)」、「Empathy(共感能力)」、「Social Responsibility(社会的責任)」、「Financial Literacy(お金に関する知識と活用能力)」の10項目で構成された教材を使用し、子ども達に向けたライフスキル向上のためのアクティビティの指導方法を学びます。

* 子ども達へのライフスキル向上アクティビティ実施
 研修を受けたソーシャルワーカーとハウスペアレントが、研修で学んだスキルを使用し、実際に子ども達に対してライフスキル向上アクティビティを実施しています。複雑な背景を持って施設に入所している子ども達が、施設退所後にスムーズに社会に適応できるように、研修を受けたソーシャルワーカーとハウスペアレントが、研修教材に沿ってアクティビティを指導。施設の子ども達へのライフスキル向上アクティビティが継続的に実施できるような体制構築を目指しています。

[次年度に向けて]

<マニラ首都圏>
 「ハウスペアレント研修規定」制定に向けた調整とハウスペアレント能力強化研修教材の最終盤の完成を目指します。

<中部ルソン地域>
 研修を受けた施設職員による子ども達に向けたライフスキル向上のためのアクティビティを実施します。

事業内容： 児童養護施設のための能力強化研修と子ども達のためのライフスキル向上アクティビティの実施
受益者層： 中部ルソン地域にある児童養護施設のソーシャルワーカー・ハウスペアレント及び子ども達
担当者： 横田宗、山本浩平、畝尾知佳、フィリピン事務局スタッフ7名



児童養護施設支援

心・体・教育の面で こども達の健全な育成をサポート

当団体が支援しているジャイラホームでは6歳から17歳の16名のこども達が生活しています。創設者であるフィリピン人牧師ジョエル氏夫妻と4名のハウスペアレント、1名の社会福祉士が貧困・虐待・育児放棄・孤児など様々な背景をもつこども達が健全な成長ができるよう手助けをしています。

心の育成 (心理ケア・空手・ダンス)

児童養護施設で暮らすこども達は、学校と施設の往復をする毎日で休日の外出もなく、何かに打ち込むことや他者と協力してひとつのことを達成する経験が不足しています。当団体では、フィリピン人インストラクターによるダンス・空手レッスンを通して、夢中になることでストレスを発散し、他者と協力すること学び、目標掲げてその達成を目指すことを経験し、社会に出るにあたって必要なソーシャルスキルを習得することを目指しています。

また、年に数回ダンスや空手のパフォーマンスをショッピングモールなどで実施し、レッスンの成果を発揮しました。

学力の育成 (教育支援)

教育はこども達の可能性を広げる重要なものです。児童養護施設のこども達はそれぞれ素敵な夢にむかって生活しています。しかし、思い描いた夢を叶えるためには様々な物事を学ぶ必要があります。今年度は学生団体YELL様の支援により、小学校に通う14人のこども達のために約3分の2の授業料の支援を実施しました。このような教育支援を通して、こども達が夢に向かって歩む事をサポートしていきます。

[次年度に向けて]

2019年は引き続きダンス・空手のレッスンを行うと共に、教育支援、海外ボランティアのイベント企画の実施などを予定しています。こども達がおもいきり夢にチャレンジできるようサポートしていきます。

事業内容：児童養護施設支援（チカラプロジェクト、朝食支援、教育支援）
受益者層：児童養護施設に入所してるこども16名
担当者：山本浩平、戸口羅津樹、Tayao, Michelle、Kurais, Lindsay、Locsin、Riozen

体の育成 (朝食支援)

食事を通しての栄養補給はこども達の活動の大きな支えになります。お腹が減ってはいは運動も勉強も遊びも身が入りません。当団体は児童養護施設のスタッフと協力しこども達に新鮮な野菜を届ける農業活動や今年度テーブルクロス様の支援により、こども達に食事支援を実施しました。その結果、こども達に栄養バランスのとれた食事を提供することができました。

施設修繕

2017年6月に大雨と台風により倒壊してしまった食堂の再建を目指し、同年12月にクラウドファンディングで資金集めを行いました。2018年に入ってから再建作業を行っており、あと少しで完成します。

完成した食堂では、こども達が食事やクリスマスパーティー等のイベントで使用する他、海外ボランティアプログラム実施時には参加者が食事をしたり、こども達と交流する場所として使用されます。



奨学金、給食支援、青空教室で こども達の健全な育成をサポート

2005年よりストリートチルドレン・貧困地域支援、児童の権利の啓発等の活動を行っている現地NGO・タタッグ(Tayo Ang Tinig At Gabay (TATAG) =私達自身が声であり道である)と提携し、ストリートチルドレンや貧困地域のこども達の支援を行っています。



青空教室の実施、給食支援

ストリートチルドレン、及び貧困地域のこども達を対象に青空教室を実施しています。「子どもから子どもへ」をモットーに15歳から19歳のこども達がアクティビティを指揮し、小学生や中学生ほどの年齢のストリートチルドレンや貧困地域のこども達に対して、こどもの権利の啓発やアクティビティ等を行います。アクティビティ実施後は、テーブルクロス様の支援により、こども達に給食を配布し、こども達の体の成長をサポート。また、日本から海外ボランティアが来た際には、異文化交流を兼ねた青空教室も実施しています。

74名に学用品支援を実施

ストリートチルドレンと貧困地域のこども達74名に対して新学期の学校生活に必要な学用品支援を行いました。新品のノート、鉛筆、鞆等を受け取り、こども達は元気に新しい学年をスタートさせることができました。

10名のこども達への奨学支援

今年度もGrowing People's Will様と3名の個人スポンサーの皆様からご支援をいただき、奨学生10名へ制服、学用品、靴等の配布と交通費を支給し、こども達が学校に通うためのサポートをしています。また、定期的に学校・家庭訪問、個人面談を実施し、こども達の状況を把握しながらこども達の成長を見守っています。

ライフスキル向上アクティビティの実施

オロンガポ市の貧困地域の子ども達が所属するフットサルチームのこども達とダンス・空手教室に通う貧困地域のこども達に対して、社会で生きていくために必要なスキルを身につけるためのアクティビティを実施しています。アクティビティを通して、社会のなかでどのように他者と付き合っていくか、また自分で目標を立てて頑張っていくこと、自分との向き合い方等、社会で生きていくために必要なライフスキルをこども達は学んでいます。

[次年度に向けて]

来年度も青空教室等のアクティビティの実施、ストリートチルドレンや貧困地域のこども達に対する学用品支援・奨学支援、ライフスキル習得のためのアクティビティを実施します。

事業内容：奨学金・学用品・給食支援、青空教室やライフスキル習得アクティビティ等を通じたこども達のサポート
受益者層：オロンガポ市内のストリートチルドレン及び貧困地域のこども達
担当者：山本浩平、Evangeline Grace Balais、Michelle Tayao、Riozan Yen Locsin

ストリートチルドレン／貧困地域支援



貧困地域の女性の所得を向上



貧困地域の女性の所得を向上

女性の所得向上支援（マニラ）

女性の所得向上支援（オロンガポ）

お菓子の袋を再利用した商品で フィリピンのお母さん達の所得を向上

2009年に開始した本事業は、子ども達が健全に成長できる家庭環境を整えることと街の美化を目的に、女性達に職業を提供しています。お菓子の袋を再利用した製品「エコミスモ」を、フィリピンの首都マニラにある貧困地域のマラボン市で製作し日本で販売することで、製作者であり母親でもある女性達に適切な賃金を支払っています。現在は、5名の女性が製作に携わっています。



2018年の製作・販売状況

2017年以降、エコミスモの製作を担当する女性達の多くが副業を始めたことで、エコミスモの製作以外からの収入も得られるようになりました。しかし、エコミスモの商品をずっと愛用して下さっている方や、コラボ商品の提案をして下さる方等、多くの方がエコミスモを気に入って下さっています。製作を担当する女性達も副業はしているものの、エコミスモの製作が好きで製作依頼を楽しみにしてくれて

いるため、発注が入ると素早く対応してくれています。アクションの事業が多様化する中、エコミスモの販売先の新規開拓や広報などが充分でなく、製作数と販売数は伸び悩んでいます。安定した製作と販売ができる方法を模索していきたいと思えます。2009年から8年間事業を実施し、製作担当の女性達の環境も変化してきましたが、今後も継続的に事業を運営できるように、工夫して取り組んでいきたいと思えます。

[次年度に向けて]

2018年は製作数、販売数共にあまり積極的な動きが無かったため、2019年は今後の事業の方向性を改めて考えたいと思えます。また、企業とのコラボ商品による販路拡大や、既存商品の精査等を行いたいと思えます。

事業内容： フェアトレード商品の製作及び販売
受益者層： マニラ首都圏マラボン市に暮らす母親世代の女性
担当者： 横田宗、長田幸子、Yabut, Grace G.

商品を手にする人の「笑顔」を想像することが、 モチベーションになっています

児童養護施設に入る可能性の高い貧困地域の子ども達が、なるべく働かずに生活できることを目的として開始した本事業では、オロンガポ市内のお母さん達がアクセサリやバッグ、デコビーチサンダル等のフェアトレード商品を製作・販売しています。現在は2名の女性が製作に携っています。単に収入を得るためだけの作業的なものではなく、どのような商品が買い手に喜ばれるかを常に考え、一つ一つの商品に心を込めて制作しています。

エシカルアクセサリブランド「Feliz」との共同事業

今年度も、日本のフェアトレード&エシカルアクセサリのブランド「Feliz」様より業務委託を受け、ピアスやネックレス、ブレスレット等の製作を行いました。Feliz商品の魅力的なデザインは、お母さん達のアクセサリ製作へのモチベーションになっています。今年度は、例年に比べオーダー数は減りましたが、Feliz代表の柿本様による現地でのワークショップを開催することができ、お母さん達の技術が向上しました。ワークショップでは、ミリ単位での作業に難しさを感じながらも、お母さん達は一生懸命取り組んでいました。お母さん達の技術力の向上と真剣さに、柿本様も大変驚かされていました。



オリジナル商品の開発

バザー出店や、現地を訪れたビジターに対する商品販売を通して販売ターゲットを分析し、オリジナル商品の新デザインの考案と製作を行い販売しました。これまでとは一味違った「高級感のあるデザイン」を求め、アイデアを組み合わせながら新商品の開発に取り組みました。新商品も多くの方に手に取っていただき、全体の売り上げ向上に繋げることができました。

バザーに出展

今年度は、計3回、バザーに参加することができました。内1回は、オロンガポ最大のショッピングモールで1週間開催されたバザーで、製作者のお母さん達が実演販売を数日行いました。これにより、お母さん達自身で販売ターゲットに関する分析ができ、「作り手の顔が見える」商品販売という貴重な経験をする事ができました。

[次年度に向けて]

今年度は、Feliz様によるワークショップの開催や、お母さん達によるバザーでの実演販売、オリジナル商品の新デザインの考案や販売を通して、来年度につながるアイデアや技術を得ることができました。来年度はFeliz様との契約更新はしないため、今までに習得した技術を活かし、来年度も安定した製作数と収入額を目標として活動していきます。また、昨年度までは主な販売先が日本でしたが、今年度からフィリピンでも販路を少しずつ拡大することができたので、来年度は今年度以上にフィリピンでの販路拡大に力を入れていきます。

事業内容： フェアトレード商品の製作及び販売
受益者層： オロンガポ市に暮らす母親世代の女性
担当者： 齊藤有香、長田幸子



76名の参加者をフィリピンへ派遣

今年度は孤児院ボランティアとストチルボランティアの内容を合わせ、1つのプログラムで孤児院滞在与ホームステイの両方を体験出来る混合プログラムや、短期間でアクションの事業地をほぼ全て回ることの出来るスタディツアーを実施するなど、プログラム内容の一部変更を行いました。また各プログラム、ボランティアワークや企画等の活動の充実は勿論、ミーティング時にテーマトークやワークショップを行い、参加者同士が様々な形でコミュニケーションを取ることの出来る機会を増やしました。その結果、参加者からは「ミーティングで每晚沢山話を出来たことがよかった」「新しい価値観や様々な考え方に会えることが出来た」「あんなに真面目な話をしたことは今までなかった」といった感想が例年以上に多くあがりました。



2018年開催プログラム一覧

- ストリートチルドレン+ 孤児院ボランティア
2月15日～2月24日 9名
3月1日～3月10日 11名
9月4日～9月11日 13名
- 孤児院ボランティア
8月16日～8月22日 7名
- ストリートチルドレンボランティア
8月22日～8月31日 14名
- 短期インターンプログラム
3月13日～3月20日 6名
8月24日～8月31日 7名
- ダンス交流ボランティア
8月6日～8月12日 4名
- スタディツアー
2月9日～2月12日 3名
9月14日～9月18日 2名
- 学生団体/有志グループ(敬称略)
学生団体大和(3/15～3/16) 13名
学生団体YELL(3/23～3/30) 12名
TABLE FOR TWO(8/15～8/19) 22名
アクションYouth(11/29～12/6) 5名

研修等の受け入れ

今年度、シチズン時計株式会社様とパートナーシップ協定を結び、当会が支援する児童養護施設や貧困地域の子ども達を対象に、フィリピンオロンガポ市にて時計工作教室「CITIZEN First Watch (自分で作るはじめての時計) Project」を実施しました。このプロジェクトはシチズン時計株式会社の創業100周年記念事業「シチズン社会貢献活動派遣制度」の一環として行われたもので、今年度は4/2～4/7の期間でシチズングループの社員の皆さんが講師として現地を訪れ、オリジナル腕時計の工作教室を実施してくださいました。本プロジェクトは2019年以降も継続して実施していく予定です。その他、今年度はNGO研修「オンリーワン講座」の現地視察ツアーでも当会の活動地をご訪問いただきました。

《2018年受入実績》

- ・シチズン時計株式会社「CITIZEN First Watch Project」(4/2～4/7)
- ・NGO研修「オンリーワン講座」現地視察(8/1～8/5)

[次年度に向けて]

今年度は前年度に比べ実施プログラム数・参加人数共にやや減少しましたが、企業や団体の受入が新たに増えた年でもありました。今後は海外ボランティアや短期インターンプログラムだけでなく、企業や団体のCSR・研修・現地視察等も積極的に受入を行っていきたいと思います。

事業内容：国際ボランティア体験事業
受益者層：フィリピンの児童養護施設や貧困地域の子ども達、ストリートチルドレン/日本の青少年
担当者：山本浩平、畝尾知佳、山内志乃、戸口羅津樹、斎藤有香

算数教室と居場所スペースで 子ども達の「生きるチカラ」を育む

2016年11月からスタートした日本事務局が運営する「コドリーム」では、地域の子ども達の「生きるチカラ」を育むために、算数教室の運営と居場所スペースの開放、そして週末のワークショップの3本柱で活動していましたが、2018年は算数教室に絞って活動を行いました。現在は、日本事務局の他に東京都立川市にある児童養護施設「至誠大地の家」にて算数教室を実施しています。今年度も、自学自習で取り組める「でき太くんの算数クラブ」様の学習材を使用して事業を行っています。



日本事務局での活動

今年度、日本事務局で実施している算数教室では、3名の子どもが学習を行いました。コドリームでは、算数の学習を通して子ども達の「生きるチカラ」を育てていますが、学力をつけることだけを目標にしていません。1日2枚のプリントをごまかし勉強せず、自分で準備、学習、丸付け、やり直し、片付けをきっちり取り組めるようになることで、子ども自身で「できた！」という実感を持ち自信を付けることを目標としています。そのため、算数の対応をする時間はほぼなく、子ども達が日々抱く「面倒くさい」「どうせぼく・わたしはバカなんだ」といった、集中して前向きに学習することができなくなってしまう要因となる様々な感情に寄り添い、向き合い、まだ自分に自信がない子どもに対してスタッフが本人を本人よりも信じて応援する時間を多く持っています。

「至誠大地の家」での活動

今年度から、児童養護施設「至誠大地の家」での算数教室が本格的にスタートしました。2017年に体験学習を行った1名の学習の様子を施設の皆様に見ていただき、他の子ども達に対しても算数教室を実施できるようになりました。現在は14名の子ども達が日々プリントに取り組み、週に1度は当団体の職員が学習を見れるような体制で学習しています。日本事務局での算数教室と同様に、子ども達がどうすれば日々前向きに学習し、自分にもできるという実感を持てるかを考えながら対応しています。また、月に1度、週末にでき太くんの算数クラブの皆様も施設を訪問していただき、子ども達に「なぜ学ぶのか」というお話や、質の高い学習方法の指導、職員の方も同席の個人面談等を実施して下さっており、子ども達にも徐々に学習習慣が付いてきました。

[次年度に向けて]

今年度は19名の子どもがコドリームで算数を学習しています。2016年末からスタートした本事業ですが、子ども達にとってよりよい場所にすべく試行錯誤を行ってきました。2019年は、施設の子ども達の中で算数教室に来る人数がもう少し増える予定となっているため、ボランティアスタッフを募集する等、体制を整えたいと思います。

事業内容：日本の子ども達の「生きるチカラ」を育むためのプロジェクト
受益者層：武蔵野市及び近隣地域の小学生
担当者：長田幸子、畝尾知佳、五味力

小学生を対象とした 国際理解講座や国際交流の実施

今年度も武蔵野市内の小学校4年生～6年生を対象とした、土曜学校「世界を知る会」が開催されました。アクションでは講座全体のコーディネートとフィリピンの小学生との交流(文通と最終回でのスカイプ交流)を担当。今年度は23名の子ども達が講座に参加し、全5回の講座を通して世界について楽しみながら学びを深めました。最終回のスカイプ交流では、自己紹介やお互いへの質問コーナー、日比対抗ゲームを通じてお互いに楽しい時間を過ごすことが出来、帰り際には「また来年も参加したい!」という声も複数聞こえてくる、大充実の時間となりました。

また筑波大学付属小学校の3年生のクラスでもフィリピンの小学生との文通やビデオレターを通じた交流活動を行いました。こちらは子ども達が2年生の時から交流がスタートし、今年で2年目に突入。来年度も同じメンバーで継続して交流活動を実施予定です。



中学校・高校・大学等へ講師を派遣、 課外授業の受け入れ

今年度は講師派遣だけでなく、中学生・高校生の課外授業の受け入れも行いました。日本事務局に来ていただき、それぞれアクションの活動説明を聞いたり、文通の英訳・和訳作業に挑戦したり、エコミスモの製作体験をしたりと、皆さん熱心に活動に参加してくださいました。

《2018年度の講師派遣》

- ・東京都杉並総合高等学校 ・亜細亜大学 ・青山学院女子短期大学 ・関西学院大学
- ・立教大学ボランティアセンター(ボランティア講座) ・武蔵野市国際交流協会(MIA)

《2018年度の課外授業の受入》

- ・東京女学館中学校 ・アレセア湘南高等学校・三重県桑名市立正和中学校

[次年度に向けて]

次年度の「世界を知る会」は開催時期が秋学期に移り、開催時間も午前から午後になります。新たな環境の中、次年度も引き続き日本の子ども達が世界について学びを深める機会を提供できるよう、努めていきたいと思ひます。

事業内容：土曜学校「世界を知る会」の実施・運営、学校への講師派遣
受益者層：武蔵野市の小学4～5年生、日本国内の学生
担当者：畝尾 知佳、長田幸子、斎藤有香

日本の児童養護施設へボランティアを派遣

今年度も、例年ボランティア派遣を行っている児童養護施設の子ども達の発表会でのヘアメイクボランティアを行いました。発表会は子ども達にとって年に1度のワクワクの日！女の子は特に舞台上上がる前のヘアメイクを楽しみにしています。今回は、ここ数年の海外ボランティア参加者を中心にボランティアを呼びかけ、発表会当日は4名のボランティアスタッフが舞台にあがる子ども達のヘアメイクのお手伝いに来てくれました。子ども達の元気の良さに驚きつつ、賑やかな雰囲気の中で施設の子ども達約40名にヘアメイクを実施。子ども達は無事本番を迎え、今年もキラキラの笑顔を見せられました。



都内でのイベントに出展

都内で行われたイベントに出店し、エコミスモやフィリピン雑貨の販売、ワークショップ等を行いました。台風など天候の影響を受けたイベントもありましたが、各イベント共に沢山の方にブースにお越しいただきました！毎年タピオカドリンクを販売しているむさしの国際交流まつり(MIAまつり)では、ボランティアスタッフの頑張りによりタピオカドリンクが完売！その他のイベントでも、ボランティアスタッフが活躍でイベントを盛り上げてくれました。



《2018年出展イベント》

- 4月21日/22日：アースデイ東京
- 5月26日/27日：METROCK
- 9月29日：グローバルフェスタJAPAN
※台風の為1日みの開催
- 11月3日：むさしの国際交流まつり(MIAまつり)

[次年度に向けて]

児童養護施設でのボランティア派遣、イベント出展共に今年度も過去の海外ボランティア参加者が多数活動に参加してくれました。フィリピンから帰国後もアクションの活動に参加してもらえることはとても嬉しく、心強いです。次年度も活動に参加しやすい環境づくりを心掛け、ボランティアスタッフの皆さんと共に活動を盛り上げていきたいと思ひます。

事業内容：日本の児童養護施設へのボランティア派遣、国内でのイベント出展
受益者層：日本の児童養護施設で保護されている子ども達、イベント参加の皆さん フィリピンの子ども達（イベント収益はフィリピンでの活動に使わせて頂いています）
担当者：長田幸子、畝尾知佳、倉金ゆみ、大野佑希也